

関係各位

謹啓 処暑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のことお慶び申し上げます。

いわゆる『新型コロナウイルス』の件につきまして、国内外ともに変異を重ねての新たな対応が求められる局面が長く続いている状況であり、引き続き慎重な対応が求められているところであります。

世界的感染が発生して以降、今年に入り各国でワクチン接種が進み、我が国でも随時接種が進んでいますが、新たな変異株の出現、「ブレイクスルー感染」等の発生もあり、その都度の情報に敏感になる傾向がさらに高まっております。

と同時に、最低限の日常生活を送りながら感染拡大防止に努めることも難しいのが変異株の特性と言える側面もあり、いたずらに陽性反応が出たことを責めたりすることは無意味といえ、誰にでも、例えワクチン接種をした方にでも陽性反応が出る状況であることを、私たちは真摯に受け入れていく必要があります。

まだまだ先の見えない状況下にあって、私たち個人個人ができる最低限のことは、「日常生活での三密回避」「マスクの励行」「手洗いの徹底」「免疫力向上の心掛け」が現状、最善にして対応可能な唯一の策と感じております。

世界的に求められている「新薬開発」も、今日明日にというステージで無い中で、今私たちに求められることは「情報発信・受信を慎重に精査し、『引き続き、用心』すること」と感じております。

情報の拡大解釈による過度の自粛や制限は、時に日常生活を疲弊させるだけでなく、人間同士の争いにつながることもあり、そうならないためにも、個人レベルにおいて『引き続き、用心＝常に、できる対策を取ること』が重要になると感じます。

ワクチン接種、新薬開発は、専門家の方々の不断の努力に委ねることとし、本学園学生・教職員は、諸先輩が大切にしてくれた『用心のDNA』を活かしつつ、今後も引き続き決して過度に委縮することなく、しかしながら用心してことにあたる習慣を大切にしていかなければならないと改めて感じております。

引き続き、全国での発症データを整理し、可能な限り本法人で把握している状況別感染事例・経路を整理し、学生の、園児の、学園関係者各位の安全安心にどのようにつなげるかを検討し、あらゆる方策を講じながら、いかに地域社会と共存しながら、緩やかに学びの歩みを止めないためにできることは何かを想定し、優先順位を明確にしていくことを大事と考えております。

引き続き、様々な試行錯誤を重ねていく所存です。重ねてご理解の程何卒よろしく
お願いいたします。

謹白

令和三年八月

学校法人 北陸学園

理事長 加藤聰介

教職員一同